

## 「第4次産業革命スキル習得講座認定制度」に関する検討会（第4回）

### 議事要旨

日時：平成30年3月15日（木曜日）13時00分～14時00分

場所：経済産業省別館9階946共用会議室

### 出席者（敬称略）

大久保委員、木村委員、小島委員、小杉委員、水上委員、平山オブザーバー

### 議題

1. 個別の対象分野について（IT利活用分野の項目追加）
2. 個別討議

1. 個別の対象分野（IT利活用分野の項目追加）

・事務局より資料に基づいて説明

2. 個別討議

（全体論）

- ・ 本分野は、企業側では年々必要性が高まっているが、大学教育は教育内容の増加による時間不足や専門性の違いから進んでおらず、企業と大学で差が生じている。このような講座が差を埋めることは重要と認識している。
- ・ 大学での座学講義と企業でのリアルな現場教育との差を埋めるためにも、シミュレーションをきっかけにモデル化とは何なのかを学ぶことは有益ではないか。
- ・ これまで生産システムを体系化できていないという点においては、今回の取組は非常にありがたい。
- ・ 本スキル標準を利用した評価・認定の仕組みが日本固有のものであっては今後広がらない。やる以上はうまくは発信できる形で取り組み、国際的な認定制度の連携も含めて認定制度自身が国際的な競争力を持つようにすべき。
- ・

（生産システムデジタル設計分野のスキル標準について）

- ・ 今後バージョンアップを図っていく中で、本スキル標準のスコープを今一度明確にする試みが必要ではないか。
- ・ レベル4の定義の表現ぶりがレベル5、6を上回るスキルが必要であるような誤解を与える可能性があるため、追々修正を図っていく必要があるのではないか。
- ・ スキル標準上のタスクやスキルの部分は、ツールの一つであるシミュレーションが前

面に押し出された表現ぶりになっているが、本来はモデリング技術がコアスキルであり、誤解なきよう伝わりやすい表現に今後リバイスをしていけばいいと思う。

- ・ 概ね IT スキル標準と整合的であり、スキル評価の構成は問題ないとする。初見の方でもわかりやすいような言葉使いへの修正は追々必要となる。

(その他)

- ・ 申請が見込まれる講座については、大学教育で得られる知識と企業教育で得られる知識を勘案して、差を埋めるための講座全体の建て付けをしっかりと考えないとバラバラなカリキュラムとなるため、よく注意する必要がある。
- ・ 職業能力開発総合大学校など生産システム・生産管理関係の教育をやっている関係機関と、本分野に申請が見込まれる講座との関係性を今後整理していく必要がある。

⇒本検討会の議論の結果、IT 利用分野において、「生産システムデジタル設計」の追加が決定した。

以上